

檜山合研特集号

第12号

定価1年間300円
組合員の購読料は
組合費を含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel. 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

2013年度檜山合同研究集会

～教科等分科会～

檜山合同教育研究せたな集会在十月十二日(土)に、北檜山小学校を会場にして開催されました。一昨年度、昨年度を上回る延べ一四名が参加、レポートも同じく一昨年、昨年を上回る四三本が報告され、様々な角度から検討されました。

現地実行委員会の中心となつたせ
たな支部では、文化祭や学習発表会な
どが同時期に行われる中、浜口委員長
買手事務局長、濱事務局次長を中心
に隣の支部の力を結集させ、合研の準
備に取り組み、当日を迎えました。

開会集会では、せたな町教育長、高
野利廣氏があいさつ。そのまま、基調
報告、講演会にも参加。

「現場のことに耳を
傾けてくれているよ
うで、なんかうれしい
ね」という感想がもれ、
檜山の教育を考える
共同の輪が広がりま
した。

基調報告を行った越前秀一事務局
長は、北海道で行われている教育行政
の現状を「子どもの権利条約」と照ら
し合わせながら、「今、行われている
いわゆる『学テ向上路線』にシフトす
ることが子どもの最善の利益につな
がるのか」と問いかけました。

3つの視点で学力を語ろう

その上で、今私たちができることは、
隣り合う人たちから「学力」について
語り、それぞれの「学力観」を共有す
ることの重要性を強調しました。そし
て、その際、今回の講師である田中昌

わかる「ってなんだ？」 本当の「学力」ってなんだ？

講演する田中昌弥教授



「知的としての『学力』がどう
いう構造になっているのか(認識論的
視点)」という3つの視点で論議する
ことが大切ではないかと提案し、学力
観の共有を図る上での方向性を指し
示しました。

弥教授が述べ
ている「社会
的に何を要求
されているの
か(社会的視
点)」「学習者
にとつてどう
いう意味があ
るのか(臨床
的視点)」がど
う

もらわないと子どもの将来が心配で
も、「人とのコミュニケーションし、
連携する能力のような力も大切に
して欲しい」と言い、文科省は「世界競
争に勝ち抜くためには、多様な人材、
対応する力など、数値で測れるもの
だけでは、対応できない。しかし、世
論の学力低下批判、そして、予算要求
の際に財務省からは成果を数値で要求
される」という、「ズレ」を明らかに
しました。「子どもたちが生きる未
来は、今わかっていく知識だけでは
できない課題が山積みである。それ
をどう創造的に乗り越えていくかとい
う視点は外せない。子どもの実態と学

講演は、都留文科大文学部教授田
中昌弥氏を招き、『学力』をつけるこ
との意味、先生何のために勉強する
の?と問われたら」と題して行われ
ました。氏は、今の混乱は、そもそ
も「学校現場の思い、社会の見方(世論)、
文科省の意図のズレが背景にあると
述べます。

「学力観」のズレ

学校現場は、「学力は数値だけではな
い、子どもの実態に合わず学習が苦行
に」と言い、世論は「(ペーパーテス
トの成績で表せる)『学力』をつけて

実践実を係関のと力
的対案として構想することがズレを
克服するために大切」と述べました。
「わかる」ってなんだ? 本当の
「学力」ってなんだ?
その実践的対案を考える上で、重要
なことの1つは、
「『わかる』のは、
学習者自身が能動
的な統合を行う結
果ということを認
識すること」と述
べました。そのこ
とをパソコン操作

「『わかる』のは、
学習者自身が能動
的な統合を行う結
果ということを認
識すること」と述
べました。そのこ
とをパソコン操作



ができるように
なることに例え、
「パソコンのマ
ニュアルだけ渡
し、それを覚え
ているかという
ことをテストす
るだけでは、意味がないでしょ。少な
くともパソコンを操作したいという
能動性があり、わかった、できたとい
う『統合』があつてこそ、マニュアル
を覚える意味がある」と語り、「学ぶ」
ということをシンプルに読み解きま
した。さらに、「極端に言うとも、体験
主義は、表面的体験に陥っている学習
(パソコンだけ与えるだけ)、詰め込
み教育は、子ども自身の統合を置き去
りにした知識の伝達(マニュアルを覚
えさせるだけ)になってしまふ。本当
の「学力」(学び)の質とは、図にあ
るような明示知と暗黙知の統合の状
態で判断することと述べました。
その後、さらに「学力」は、どうい
う構造になっているのかを読み解き、
「これからは、『共有の学力』をどう
育てていくかが鍵になること」を示唆
し、講演を終えました。
このあと、教科等分科会が行われ、
レポート報告を受けながら、実践や課
題についての議論が交わされました。
子どもの事実や取り組みがいていね
いに掘り下げられたり、課題や困難が共
有されたりと、現場を生きる人間とし
て共有できそうな「語り」を通して、
日常をいろんな視点から振り返る機
会にもなりました。

参加者からの講演の感想

「学力」について視点が明確になり、整理された！

○表面的なスキルを訓練して結果を出し、その「成果」に安産してしまいそうな日常の自分を反省しました。少し大きく構えて、子どもにとって幸せで大切なことは何かという視座で実践を見つめ直したいと思います。父母が求めるものとの共有という点も思いが至りました。

○わかりやすいお話で良かったです。最後、長かったので時間オーバーしないようにしてください。(運営)

○様々な実践を考えていく上での基盤的な「思想」を学んだような気がします。

○学力についてどう捉えるかという議論は随分しているはずですが、今回とてもよく整理してお話が聞けました。あらためて、学力アップという言葉に振り回されないで実践ができるのではないのでしょうか。

○ペーパーテストだけでは、(何もととは言わないが・・・)本物の学力は育たない、明示知はもちろん、暗黙知、体験とも結びつけ、子ども同士の教え合い、学び合いも組織し、将来像を提示してようやく本物が育つということが分科会でも確認できました。

○学力=テストの点数だけではないのに・・・という思いはありつつも、学力とは何かと問われると、自分の中でもややもやしていました。今日の講演を聞いて、数値には表れない学びに対する好奇心や目の輝き、一人ひとりが受けとめられる安心感などが学力を考える上で、とても重要だと言うことが自分の中で再確認できました。「学力」という極めて意味の広い言葉ですが、もう一度、自分の中で見つめ直し、考え直す良い機会になりました。

○57才にしてやっとわかり、納得しました。今まで、2~3回話しを聞いていてもなんとなくいい話をしているなという感じでした。今日、話しが見えたとき、「やっと自分の実践と理論が追いついたんだな」と思いましたが、「待てよ、10年前の方が一生懸命学習していたよな・・・」という考えが浮かび撒いた。よく振り返ってみると、「気楽に聞いたから理解できたのでは・・・、以前は聞いたときに『分析知』だけで、聞いていたのではないかと思いました。もっと、自分の思考を『経験知』と『物語り知』にも広げて聞くことができれば10年前でも理解できたのではないかと思います。今、担任をしていて、半年で卒業させますが、ゆったりと子どもに接することができるのではないかと思います。自分の実践を後押しする講演でした。

むずかしかった！勉強になった！そうだと思った！

○とても、むずかしかったです。

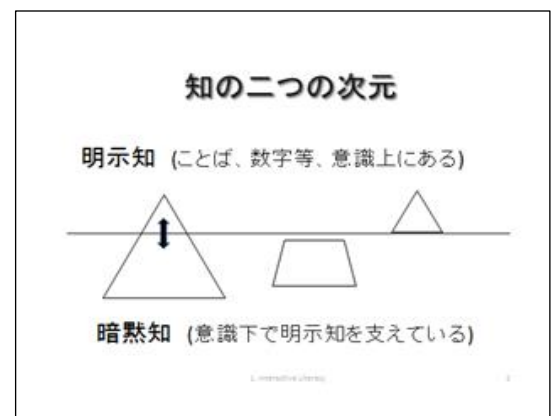
○むずかしかったです。

○むずかしいところもありましたが、大変勉強になりました。

○できるだけ、わかりやすく学びや学力について解説していただいたと思います。

○ところどころむずかしい箇所もありましたが、良いお話でした。

○PTA会長さんやおやじの会の活動をしていたときの話、よかったです。知的な好奇心があれば伸びるという話は本当にそうだと思いました。



明日から生かしていきたい！自分のものにしたい！

○経験を統合させることが理解することにつながると聞き、まずは自分がと思いました。低学年の子どもたちには、経験させることから始めたいと思います。

○特別支援の生徒を担当しております。「学力」とは何かを考えつつ、興味関心を高める授業を目指していますが、基礎・基本の定着のバランスに苦慮していました。今日の講演を拝聴して、明日以降の授業に生かしたいと思います。

○高校生の時、「どうして勉強するの？」とまさに同じ質問をしたことがありました。その時、「人生を豊かにするため」と答えてもらって納得しました。納得できたのは、環境や人に恵まれ、それまでに経験知がたくさんあったからだと思います。どうして勉強するのかというのは、私が子どもたちと関わる中で授業や遊び、色々な場面で伝えていくのかな・・・と思いました。ありがとうございました。

○今までの経験から明示知と暗黙知を考えてみましたが、自分は完全に分離しています。統合できていない。上っ面だけの薄っぺらな人生を歩んできたのかなと思ってしまいました。物事の本質をしっかりと見極められるようになりたいですね。(わかった気になって間違いをするのは最悪なので)今日の講演の意味をしっかりとかみ砕いて、自分のものにしたいです。

先達から引き継がれ、檜山で大切にしてきたこと

○檜山の教育の考え方が間違っておらず、多面的な学習が学力に結びつくことを再確認できました。

○本当の学びとは・・・暗黙知と明示知の往還関係を促すこと。先生のわかりやすい説明で大変勉強になりました。点数だけで、子どもを学ばせるのではなく、子どもの可能性を耕し、鍛えると言うことの大切さ、檜山の教育の意義をあらためて認識し、これからも大切にしたいと思いました。